

【与謝野町】 校務 DX 計画

1. 趣旨

与謝野町では、GIGA スクール構想に基づき、令和 3 年度には校務支援システムや 1 人 1 台端末、保護者連絡アプリを導入する等、ICT 環境の整備を進めてきました。教員間においては、校務支援システムのグループウェアやクラウドサービスを活用し、伝達事項、各種資料や教材をオンラインで共有しており、校務の効率化を図っています。しかしながら、学校現場では業務の複雑化や負担増加といった課題や保護者との連携は依然としてデジタル化及びペーパーレス化が進んでいない等、多くの課題が存在しており、より一層効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、本町では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション (DX) を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取組を進めることとします。

2. 与謝野町における課題等について

「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果 (文部科学省 令和 5 年 11 月実施) を踏まえ、与謝野町における次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務 DX の推進を図る必要があります。

(1) 汎用クラウドツール活用の推進

校務 DX 化チェックリストの結果によれば、「教職員が作成した教材等をクラウド上で共有する」「職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化する」等、校内でのクラウドツールの活用は進んでいます。しかし一方で、「学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している」「児童生徒への各種連絡をクラウドサービスを用いて配信している」など、保護者や児童生徒を対象とした利用については、十分に進んでいない状況です。保護者連絡アプリや児童生徒用クラウドアカウントの導入は整備されているため、今後更なる教職員の業務負担軽減を目指していきます。

(2) FAX・押印の原則廃止

校務 DX 化チェックリストの結果によると、ほぼ全ての学校で業務に FAX の使用があり、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があるという現状で、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害しています。

(3) 今後の校務支援システムの在り方検討

本町で導入している校務支援システムは、児童生徒の学籍 (名簿) 情報等の情報入力を手作業で行うことも可能ですが、原則としては CSV 形式で作成した個人情報ファイルを取り込んで登録しています。本町内の小学校から中学校に進学する際には、校務支援システムにより学籍情報等を学校間で送信することができます。しかし、現行システムはネットワークが分離された SaaS (ASP) 型 (※1) で運用されており、学習系データと校務系データの連携ができない課題があります。この課題を解決するため、今後は教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティ (※2) の考え方にに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、校務系・学習系ネットワークの統合について整備を検討していく必要があります。

(4) 教育情報セキュリティポリシーの必要性

平成25年に情報セキュリティ対策基準を策定して以来、教育現場の現状に即した教育情報セキュリティポリシーの改訂が行われていない状況にあります。

今後は、国の方向性や現状を的確に把握し、クラウド上のデータやサービスの活用を前提とした新たな教育情報セキュリティポリシーの策定が求められます。また、学校では児童生徒に関する多様な情報が日常的に活用されていることを踏まえ、児童生徒の存在や情報の多様性・多目的性を十分考慮した情報セキュリティ対策を講じることが重要であるため、まずは教育現場の実情に合った現実的で実効性のある教育情報セキュリティポリシーの整備を進める必要があります。

3. 校務 DX に向けた取組

上記の課題踏まえ、校務 DX に向けた取組を以下のとおり進めます。

(1) 業務を支援するツールを活用した効率化の推進

教職員の業務負担を早急に軽減するため、まずは既存の業務支援システムの活用として、保護者連絡アプリによる保護者からの出欠連絡、学校からの配布文書等のデジタル化を推進します。また、オンライン会議ツールを活用し、児童生徒とのリアルタイムでの連絡や学習状況の把握・評価の充実に努めるとともに、教職員間の情報共有を促進し、校務の効率化をさらに推進していきます。

(2) FAX 及び押印の見直し

災害や教育ネットワークの不具合時など FAX の方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

(3) 校務系・学習系ネットワークの統合等

校務系ネットワークの学習系ネットワークへの統合を想定し、データ連携やセキュリティ対策について調査研究を進めます。また、自宅から学校の校務用端末を安全に遠隔操作できるシステムとの比較も同時に進めていきます。既存のサーバや校務端末の更新時期を考慮し、ネットワーク統合後の組織体制も視野に入れた取組を進めていきます。

(4) 教育情報セキュリティポリシーの策定

クラウド活用を前提に、それに適したセキュリティレベルを確保しながら、データ利活用や個別最適な学びなど、新たな時代にふさわしい教育 DX の基盤を構築するため、学校現場の現状を踏まえ、「教育情報セキュリティポリシー」を策定します。

【注釈】

※1 SaaS (ASP) 型の「SaaS (サース又はサーズ)」とは、「Software as a Service (ソフトウェア アズ ア サービス)」の略称で、ソフトウェアを利用者側に導入するのではなく、提供者側で稼働しているソフトウェアを、インターネット等のネットワーク経由で利用者がサービスとして利用すること。

※2 「ゼロトラストセキュリティ」とは、「何も信頼しない」を前提に対策を講じるセキュリティの考え方のこと。具体的には、ネットワークの内外に関わらない通信経路の暗号化や多要素認証の利用などによるユーザー認証の強化、ネットワークやそれに接続される各種デバイスの統合的なログ監視などが挙げられる。